

内閣官房「明治150年」関連施策



# 伊勢を創った太田小三郎

明治時代は明治元年西暦1868年より明治44年1911年まで  
本年 平成30年2018年は明治元年から150年目に当たります

太田小三郎は 明治時代を 23歳～67歳 で生きています

秋 田 耕 司

## 伊勢の明治 元年 1868 (22歳)～5年 1872 (27歳)

慶応03	●大政奉還
慶応04 = 明治元	<ul style="list-style-type: none"> <li>●明治元年に改元 ●鳥羽・伏見の戦い→明治元年 ●戊辰戦争→明治2年</li> <li>●王政復古により明治政府樹立、政府の基本方針である「五箇条の御誓文<small>ごせいもん</small>」発布</li> <li>●祭政一致の方針により、神仏分離令発布: 1) 全国神社に奉仕していた仏教関係者の還俗を求める、2) 神社にあった寺の廃寺、3) 神号に仏語を禁止(妙見町→尾上町、中之地蔵町→中之町)、4) 神葬祭が求められる、5) 神道への改宗</li> <li>●廃仏毀釈運動を政府は戒めたが盛んになってしまい明治4年前後まで続いた。</li> <li>●宇治山田は神領・天領、山田奉行・自治組織(宇治会合と山田三方)が廃止、度会府設置(府知事 橋本実梁<small>さねやな</small> 攘夷派の公卿) 東京府と同様に府となったのは重要視の現れ</li> </ul>
明治02	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第55回式年遷宮 ●国家の宗祀とする神宮改正が行われ、伊勢神宮が本宗となった。</li> <li>●東京へ向かう途中、右大臣三條実美と共に明治天皇が史上初めて伊勢神宮を参拝</li> <li>明治天皇行幸に対し、度会府は参道にあたる仏閣の取り払いを命じ、神領内からの仏教追放政策を推進、196ヶ寺が廃寺にはなったが、50余寺が残存</li> </ul>
明治03	●天皇に神格を与え神道を国教と定め、祭政一致の日本とする「大教」が宣布(国家神道)
明治04	<ul style="list-style-type: none"> <li>●御師制度廃止、檀家への大麻(御札)配布を禁止、神宮司庁(伊勢神宮の事務機関)新設</li> <li>●近代社格制度制定: 神社所領地の国有化、神職の世襲廃止、叙爵を止めて士・民籍に編入</li> <li>●山田羽書は藩札処分とともに発行を停止 ●廃藩置県(明治政府の中央集権)</li> </ul>
明治05	<ul style="list-style-type: none"> <li>●鉄道: 新橋-横浜間運行開始、●富岡製糸工場創設</li> <li>●教部省設置→神道国教主義に立脚した神仏混合の国民教化運動=大教宣布運動を行う。</li> <li>●海路にて二軒茶屋より上陸、明治天皇伊勢神宮参拝(2回目)</li> </ul>

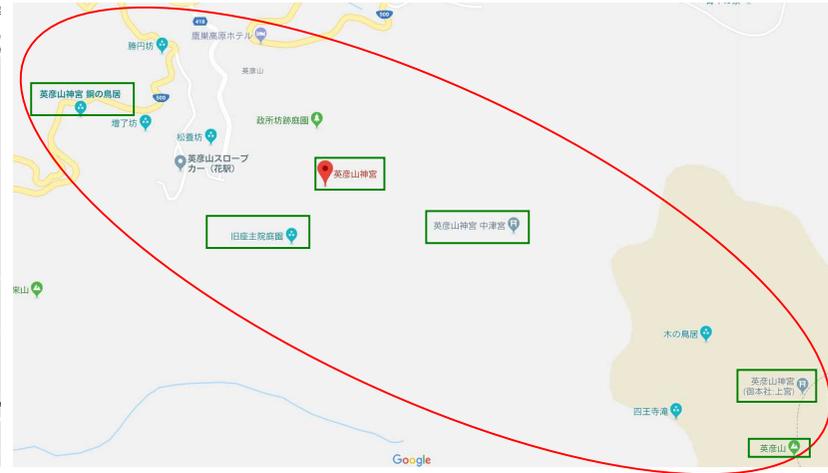
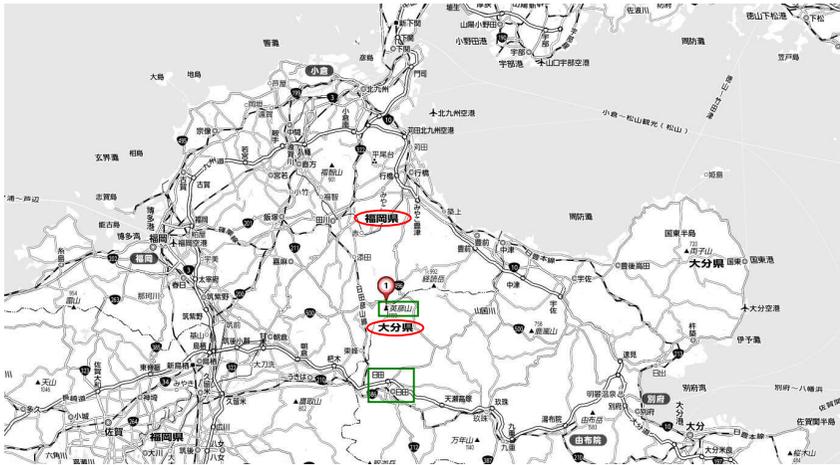
## 弘化3年 1846 (明治元年の22年前) 太田小三郎の誕生



伊勢市明治百年展目録 より 名古屋市在住 鷹羽氏より伊勢市に寄贈  
弘化3年 1846 (明治元年の22年前)に豊前国(福岡県東部と大分県北部)もと小倉藩 英彦山ひこさんの  
鷹羽たかば寿一郎の三男「匡一」として生る。鷹羽家は代々「英彦山」の執当職(座主ぎすに次ぐ NO.2)  
(伊勢度会人物誌、神都名家集、幕末秘史 英彦山殉難録)

小倉藩 初代藩主 小笠原忠真ただぎねの母は家康の孫にあたり西国譜代大名(幕臣)の筆頭

# 英彦山とは、日本三大修験の霊場「靈仙寺」



明治元年の神仏分離令により、修験の別格本山「靈仙寺」を廃し、「英彦山神社」に改称 三條實美(右大臣)  
昭和50年「英彦山神宮」 祭神:天照大神の子、天忍穗耳命あまのおしほみみのみこと  
英彦山座主のち高千穂教有きょうゆうの母は関白一条忠良ただよしの息女で三條實美さねとみの祖父公修きんおさの養女  
幕末、王政復古に尽力した多くの尊王の志士を輩出 兄 浄典は幕末勤王大義を唱え、遂にこれに殉じた(英彦山殉難録)  
弟 匡一も三條實美(尊王攘夷派の公家)、岩倉具視ともみ(公武合体派の公家)諸公の門に出入して王政復古に同調

## (少時) 豊後日田の広瀬青村に儒学を学ぶ

広瀬青村(邨) ひろせ せいそん

文政元 1818～明治17年 1884 66歳

幕末・明治の書画家 「淡窓」の義子

本名: 矢野範治、字: 世叔

淡窓の門で学び、詩を能くし、書にも優れ、  
画にも巧みで蘭竹を好んだ。

広瀬淡窓 ひろせたんそう

天明2年 1782～安政3年 1856 74歳

諱いみな 生前の実名だが口にするをはばかった: 建

字: 廉卿、子基 号: 淡窓 青溪

儒学者、漢詩人、教育者

筑前国の亀井南冥、昭陽父子に師事

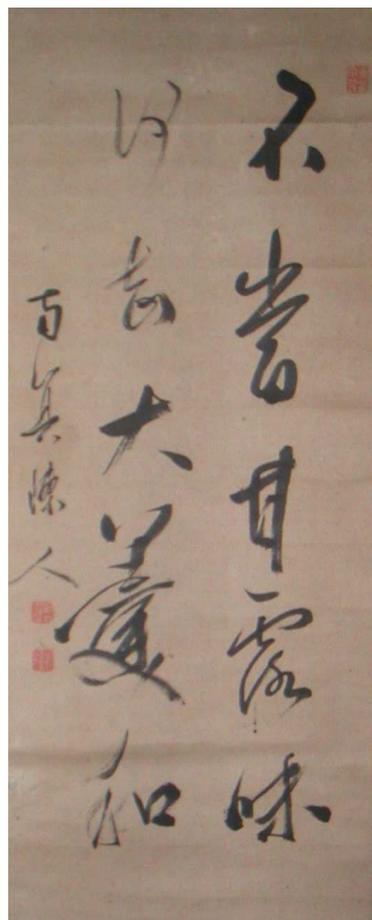
豊後国日田に日本最大級の私塾を開いた

私塾「桂林荘」のちの「咸宜園かんぎえん」

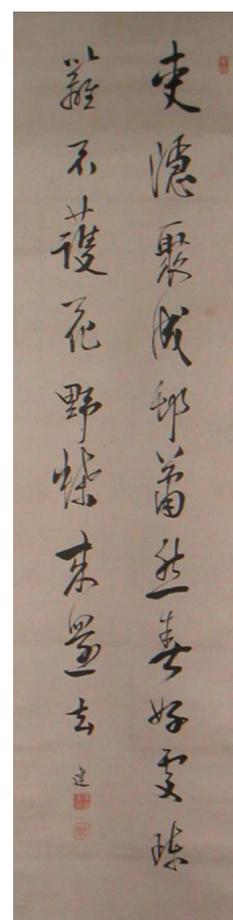
文化2年 1805～明治30年 1897

弟の子孫 広瀬正雄: 日田市長・衆議院議員

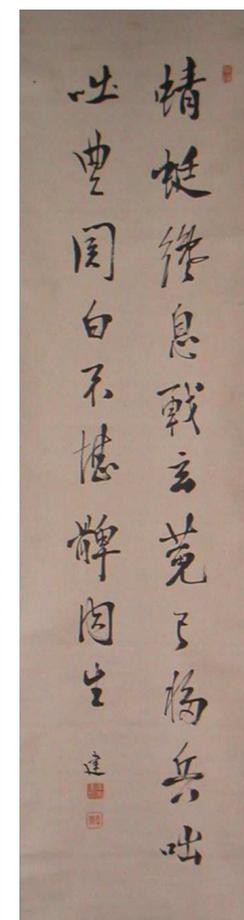
その子 広瀬勝貞: 大分県知事



亀井南冥



広瀬 建

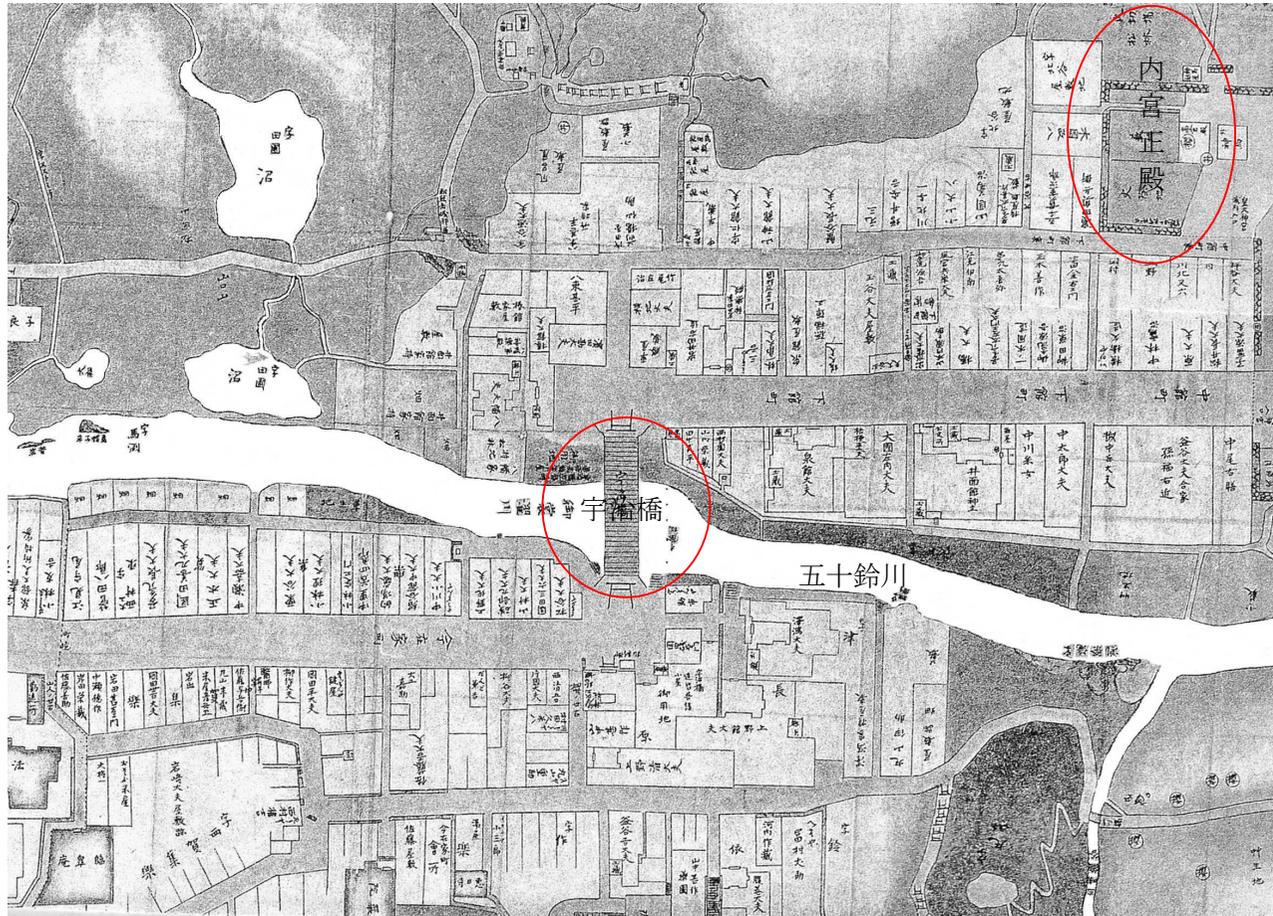


(亀井南冥) 不當甘露味 何知大羹あつもの和

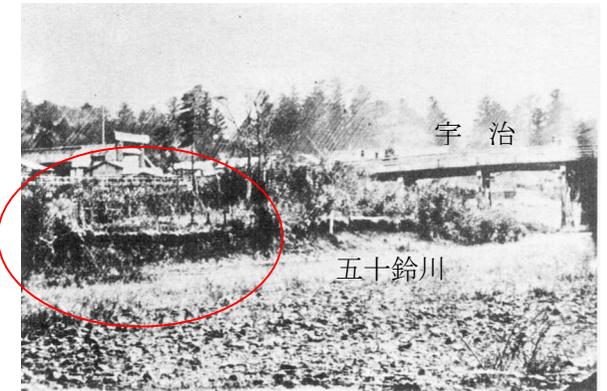
(広瀬 建 1) 吏隱聚成邨蕭然春好處疎 籬まがき不護花野蝶来還去

(広瀬 建 2) 蜻蜒せいてい(飛ぶ範囲が広い)終息戦玄菟メン己移兵咄しかる 咄豊関白不堪髀もも肉生

三條相国(しょうこく官職:首相=實美)の用務(微士)で鳥羽藩(伊勢度会人物誌)/山田奉行(神都名家集)に数回、至る祭政一致/神宮改革/御師制度廃止/明治2年第55回式年遷宮、天皇の陸路/海路からの行幸？途中、明治5年(27歳)初めて神宮に参拝、神宮の窮状を知る:神苑に民家が！



「宇治郷之図」文久元年(1861 江戸末期) 横地長重 作



明治10年(1878)頃の内宮神苑

この窮状を憂い伊勢に移住 縁あって、

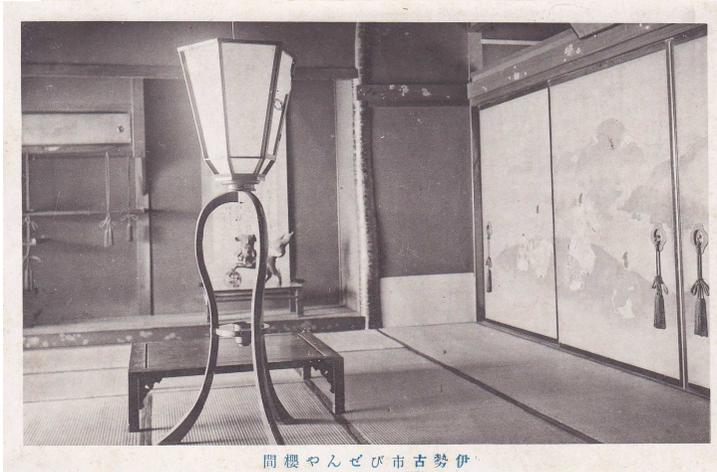
明治5年(27歳) 備前屋太田氏の養嗣となり、太田小三郎と改称

古市3大妓楼: 備前屋(牛車楼・桜花楼)、油屋(歌舞伎 伊勢音頭恋寝刃)、杉本屋(菊寿楼)

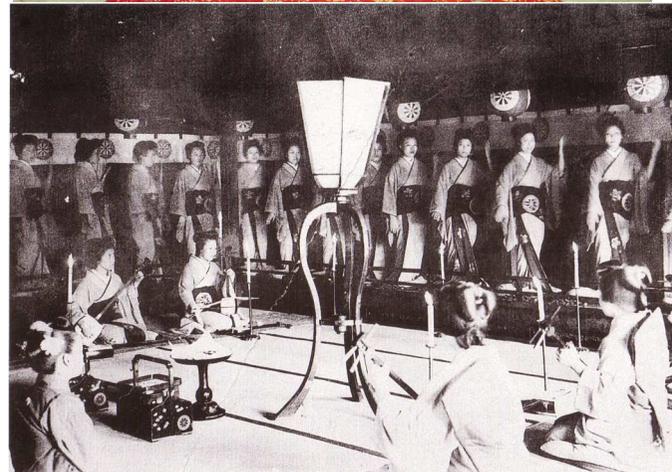
寛政6年 1794 より伊勢音頭を呼び物とし繁栄を極めてはいたが、この頃は古市妓楼70→32軒に衰退



伊勢古市芝居全景

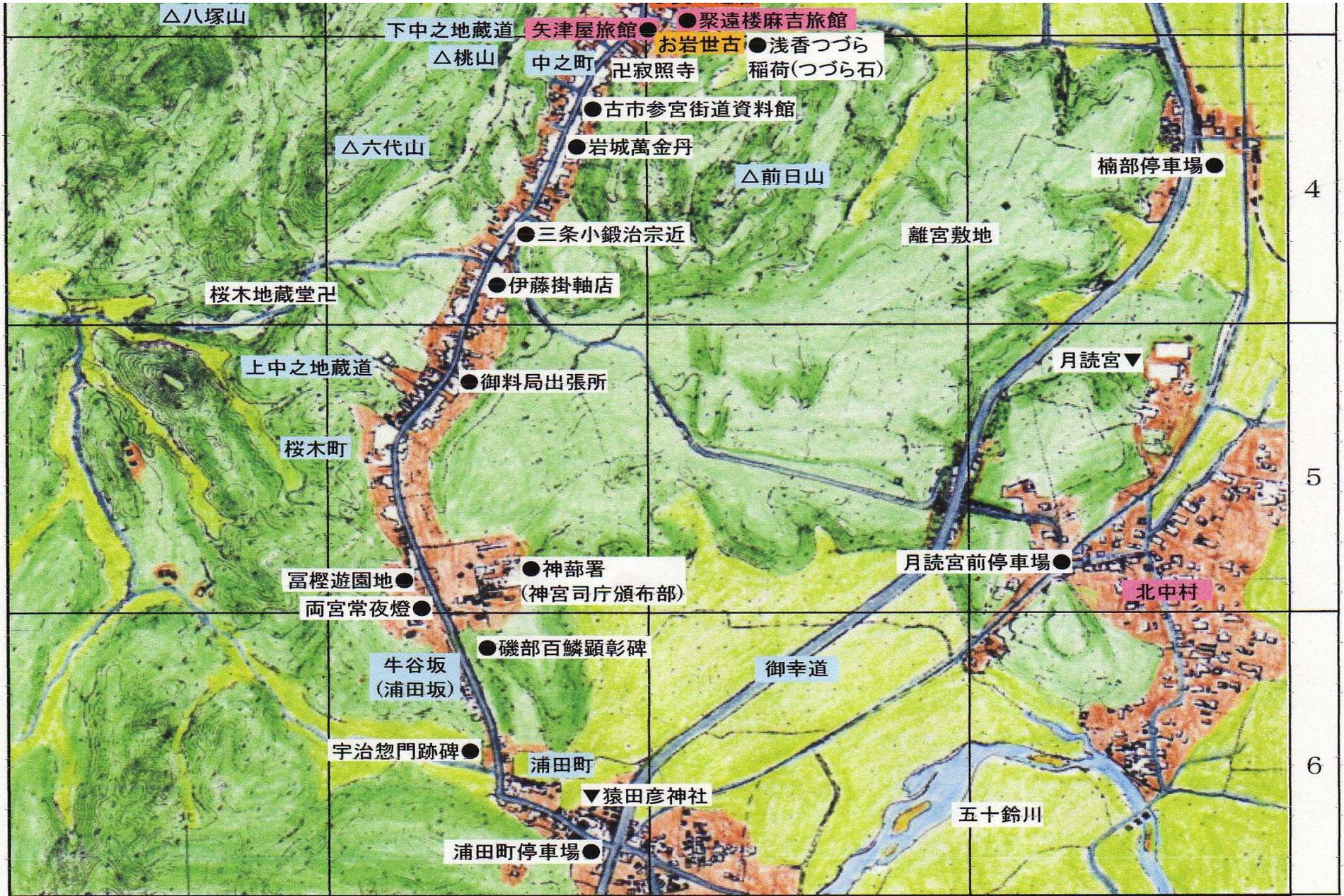


伊勢古市芝居の間



明治7年 1874 光瀬みつひろ 山口県で誕生 のち、子がなかった小三郎の養嗣となる





4

5

6

(28～59歳) 伊勢の明治 6年 1873 (28歳)～37年 1882 (59歳)

明治06	●第一国立銀行(民間銀行)日本初の株式会社 ●太陰暦を太陽暦に変更 明 5.12.3→明 6.1.1
明治08	●神宮にガス灯灯る
明治09	●度会県が廃止され、三重県に統合
明治10	●西南戦争
明治11	●神宮暦頒布開始
明治12	●宮川の渡し廃止 宮川橋再建 ●コレラ大流行(明治19年にも再流行)
明治13	●中山道、熱田神宮経由、陸路にて明治天皇伊勢神宮参拝(3回目) 龍大夫邸に宿泊
明治14	●国会開設の勅諭 自由党結成など全国的な民権運動の活発化
明治22	●市町村制により宇治山田町となる 初回町会議員選挙(議員数30名)初代町長:村井恒蔵
明治26	●御木本幸吉 半円真珠養殖に成功、明治38年真円真珠養殖に成功
明治27	～28 (47歳) ●日清戦争 明治37～38 (57歳) ●日露戦争
明治38	●明治天皇が鉄道にて伊勢神宮参拝(4回目)



龍大夫邸明治天皇行在所碑(明13) 虎疫記念碑(明19) 再建された宮川木橋と参宮鉄道(明42) 明治聖代戦役(日清日露戦争)記念碑(昭3)

## 明治9年(31歳)「交修社」を創設→明治15年政治結社「志勢同盟会」発足に発展

政治・法律・経済・宗教・教育・及び農工商全般の新刊著書を購入して閲読研究 県下初の学習討論の結社  
特に「神宮」に関して提案などを行い、神苑会創設の遠因となった 発企者は小三郎を始め、

北川矩一 <small>くいち</small>	宇治山田市初代市長、衆議院議員、山田銀行・参宮鉄道の創立に関わる
村井恒蔵	米商、町会議員・初代町長、市・県会議長、山田銀行・伊勢電気会社・五二会創立に尽力
山本伊兵衛	木綿商、町・市会議員、三重県製茶会社副社長、山田米穀取引所専務理事、山田銀行
野村四郎兵衛	材木商、茶問屋、町・市会議員、山田銀行取締役、北海道移民会社、伊勢物産会社
島田長兵衛	呉服商、町・市会議員、山田銀行頭取
橋本三郎	小学校教員、三重県県庁
椿秦一郎	山田師範学校教官
佐野嘉衛	山田師範学校教官



北川矩一



村井恒蔵



野村四郎兵衛

その間、大阪上等裁判所に奉職し、東京にて川崎正蔵と共に築地造船所の創立に従事

# 明治18年(40歳)前後か？ 備前屋の家盛挽回

天明～寛政年間(1781～1800)の頃に絶頂期 妓楼:約70軒 遊女:1,000人 街巷(=待合?旅館):約342軒



明治5年頃 妓楼:32軒(遊女:640人くらい)・・・半減 (伊勢古市こぼれ話 井村かね)  
備前屋は、寛政6年 1794 より伊勢音頭を呼び物とし繁栄を極めてはいたが負債は山積

学んだ私塾「咸宜園かんぎえん」もあり、英彦山も管轄していた日田ひた県令 松方正義(4・6代総理大臣)公の知遇を受る等により、小三郎が10余年で挽回(明治18年前後)

## 明治18年(40歳) 製紙兼活版印刷業 「殖産組」創業

---

明治4年御師廃絶、明治11年神宮暦頒布開始  
お祓い大麻(神宮の御札)を神宮で製作することになり、製紙・印刷の需要が増加

村井恒蔵	(38歳) 前述
野村四郎兵衛	(32歳) 前述
浜田種助	(51歳) 赤福 初代町会議員
島田長兵衛	(29歳) 前述
石丸弘人	初代町会議員
吉川清三郎	(53歳) 志勢同盟会

明治19年 中北喜兵衛(のち神都製紙 社長)が製紙業を創業

明治31年 小林直助、木下喜助、中北喜平、山本斎吉、里和助次郎、青木伊平らが「伊勢産紙」を組織

明治32年 「殖産組」・「伊勢産紙」・「五十鈴川製紙」3社が合併し、「神都製紙」設立

各社の品質のばらつきを解消し、神宮の用紙を一手に引き受ける体制ができた

## 明治19年(41歳)「神苑会」結成

大岩芳逸、村井恒蔵らとともに発起 創立趣意書と会名称命名は満岡勇之助(教師 度会郡長)



大岩芳逸(ほういつ) 医師(27歳)  
 明治31年町会議員、  
**十七日会(敬神団体)**  
 明治9年組織、  
 神都の公益に尽力  
**宇治の鉄道入線を阻止**  
 (神宮清浄、煤煙問題)



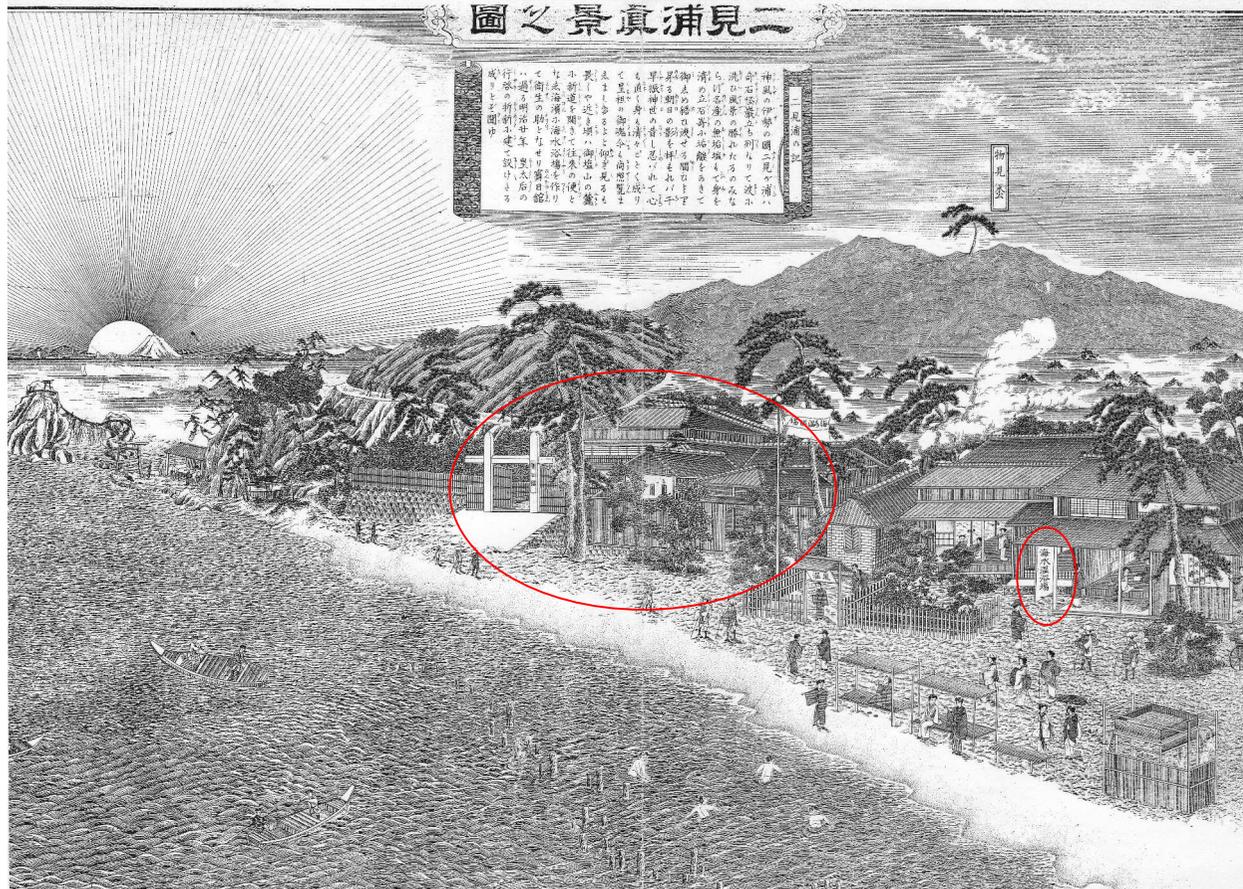
村井恒蔵(28歳)米商、  
 町会議員・初代町長、  
 市・県会議長、  
 山田銀行、山田米油会社、  
 伊勢電気会社、  
 五二会創立に尽力

当初は地元中心の活動で会員数82名 一志久保町に仮事務所を設置 4部体制で事業に取り組む

仮会頭	浦田長民(ながたみ)(度会郡長、度会府官吏、神宮少宮司) <b>神宮改革</b>	 神苑会仮会頭 浦田長民
庶務部	太田小三郎、大岩芳逸、吉田轍五郎(初代町会議員)、山本伊兵衛(茶業)、 宇仁田宗馨(そうけい?) (山田羽書取締役、度会県会計課長、禰宜)	
土木部	濱田種助(赤福)、井坂徳三郎(度量衡販売 県会議員)、澤潟おもがた久信、 西川武右衛門(初代町会議員)、大西六郎兵衛	
文書部	石丸弘人(初代町会議員)、小森梅太郎(林業)、 白井清栄門(油屋)、藤井清司、吉川清三郎(宮川分水工事を企画)	
主計部	橋爪孫七(公益)、上野梧一、島田長兵衛(呉服商)、 世古善兵衛(青物市場)、野村四郎兵衛(茶業)	

## 神苑会の業績(1)明治19年着工(41歳)「賓日館」同20年竣工

伊勢神宮に参拝する賓客の休憩・宿泊施設 明治天皇の母 英照皇太后のご宿泊のため、2ヶ月で竣工  
建設委員: 島田政充、秋田喜助(27歳)



二見は明治15年 1883 日本初の海水浴場として、大正天皇も同館に宿泊され海水浴を楽しまれた  
明治44年 1912 二見館に払い下げ、別館として平成11年まで営業、平成15年 2003 二見町に寄贈

## 明治20年 1887(42歳) 神苑会役員名簿と役員略歴・・・地元中心

役職	氏名	略歴
仮頭	鹿島則文	鹿島神宮宮司、のち伊勢神宮大宮司、皇學館の創立などに尽力
幹事兼庶務部長	<b>太田小三郎</b>	(42歳)古市備前屋主人、明治31年町会議員、参宮鉄道・山田銀行などを発起
庶務日勤員	山本伊兵衛	兼)庶務部員、 <b>初代町会議員</b> 、三重製茶会社・山田米穀取引所・山田銀行を創立
	<b>大岩芳逸</b>	医師、明治31年町会議員、十七日会を組織、神都の公益に尽力
庶務日勤員・候補員 兼)庶務部員	上野梧一	
	吉川清三郎	骨董商、志勢同盟会、殖産組、山田製紙会社、 <b>宮川分水工事を企画</b>
	村田徳三	伊勢河崎 <b>角仙商店</b> (現在の角仙合同株式会社) 村田家八代当主
庶務部員	山中崔十	眼科医
	<b>村井恒蔵</b>	米商、町会議員、 <b>初代町長</b> 、市・県会議長、山田銀行・山田米油・伊勢電気会社、五二会創立に尽力
	石丸弘人	<b>初代町会議員</b> 、
	白井清栄門	古市油屋主人、 <b>初代町会議員</b> 、山田銀行、宇治山田町立病院設立に尽力、参宮鉄道社長代理
	西川武右衛門	<b>初代町会議員</b>
	辻村弥八	<b>初代町会議員</b> 金物商
	藤井清司	
	平野久右衛門	
	大西六郎兵衛	
	久保田五兵衛	漆器商、明治31年町会議員
	岡村長四郎	漆器( <b>伊勢春慶</b> )の製造販売
庶務部員	藤井清司	兼仮頭付属書記
書記	下山保福	
	日比益衛	
	渡辺 漸	兼)寄付金募集係
寄付金募集係	橋爪佐太郎	兼)宮後町他3ヵ町委員
主計部長	宇仁田宗馨	兼)庶務部員、度会県会計課長、参宮鉄道取締役、宮川電気取締役

明治22年 第一回宇治山田町々会議員選挙 明治28年半数改選 明治31年半数改選時、**小三郎当選**

主計部日勤員 候補員	竹内善兵衛	兼)主計部員、呉服商
	山羽九郎兵衛	兼)主計部員、青物問屋、第1回半数改選町議会議員
	世古善兵衛	兼)主計部員、初代町会議員、商業会議所議員 青物市場
主計部員	島田長兵衛	呉服・洋品商 初代町会議員、山田銀行初代頭取
	世古口喜平次	南勢志摩郵便局長協議会長
	小川宗一	酒問屋、参宮鉄道に尽力
	秋田喜助	(28歳) 洋物商、初代町会議員、宮川電気初代社長
	榎本三右衛門	砂糖商、商工会議所議員
	西田七左衛門	酒問屋(神都麦酒)、初代町会議員
	橋爪孫七	明治31年町会議員、
	河村清兵衛	糶屋 醤油製造業
	山下五郎兵衛	伊勢河崎 <山五> 山下五郎兵衛商店 カツオ節製造販売
	橋本総(惣)八	製油業
	地所家屋調査委員	佐田齋次郎
中西用亮		兼)岩淵町他2ヵ町委員、外宮禰宜、教育に尽力、貸金業
田中虎吉		兼)中之切町他3ヵ町委員
中島町他3ヵ町委員	中森重平、藤本重樹(俳諧)、白米文四郎、中村福松、野村市助	
常磐町他2ヵ町委員	古川新三郎(初代収入役・初代町会議員、常磐町戸長、町収入役)、伊藤収二、藤井源三郎、西井長吉	
曾祢町他3ヵ町委員	松本半五郎、鳥山卯平、慶谷豊吉、中村安右衛門、加藤長平	
宮後町他3ヵ町委員	守屋式太郎、河辺藤次郎、橋爪佐太郎(兼)寄付金募集係)、渡辺恒六、野間宗三郎(町会議員?)	
岩淵町他2ヵ町委員	池村萍二(初代助役・初代町会議員)、中西用亮(兼、地所家屋調査委員)、沢村石斎、青木治助(初代町会議員)	
河崎町他1ヵ町委員	鷹羽英男、井坂長七、西井忠次郎(初代町会議長・初代町会議員)	
古市町他5ヵ町委員	小林文助(初代町会議員)、木戸七兵衛、小林佐平(初代町会議員)、 上田喜市郎(敬神家、左洲を見出す)、古川喜七、増井大助(寺子屋、御家流書)、浦七音吉	
中之切町他3ヵ町委員	大越智正英、八束甚平(明治34年町会議員)、田中虎吉(兼、地所家屋調査委員)、藪谷駒造、渋谷本造	

明治22年 宇治町と山田町が合併し宇治山田町となる

第一回宇治山田町々会議員選挙 明治28年半数改選 明治31年半数改選時、小三郎当選

# 佐伯旅館春風荘に神苑会事務所



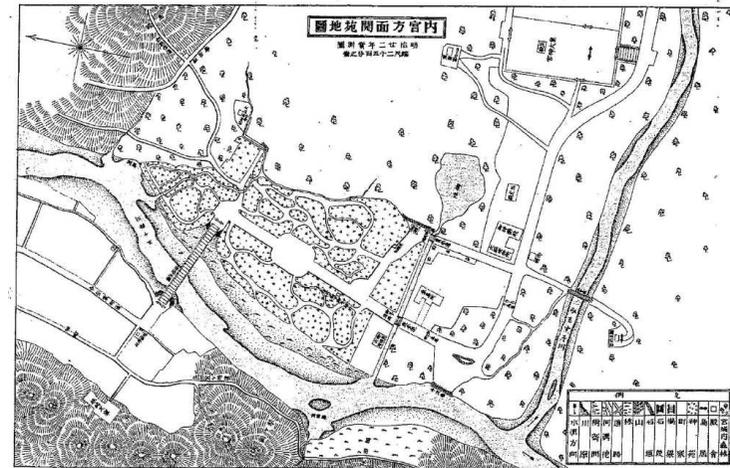
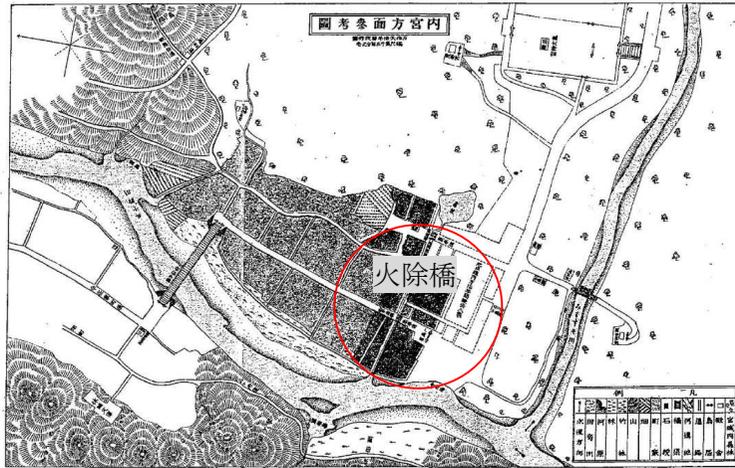
# 外宮前 農業館にも神苑会事務所

---

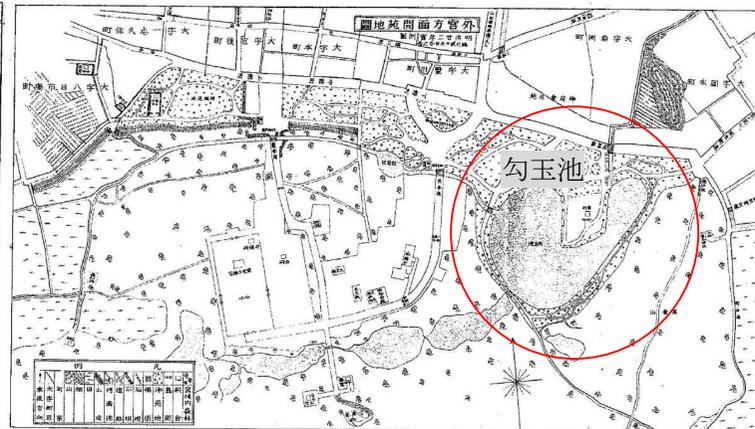
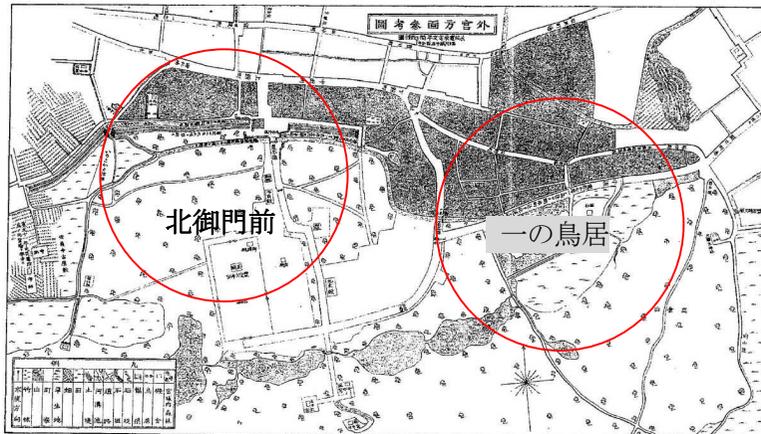


明治24年建築

## 神苑会の業績(2)明治20年(42歳)「神苑整備」開始 27年神宮に献納

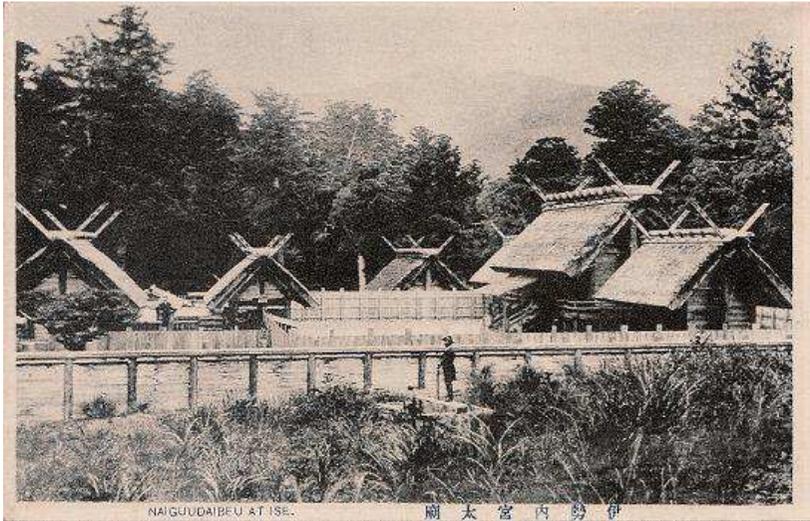


内宮：3年を要し宇治橋内民家56戸を撤去 山林170町歩を神宮風致保存林に編入  
正殿四重垣、内宮東西の宝殿が正殿の後ろに後退した構造が確立

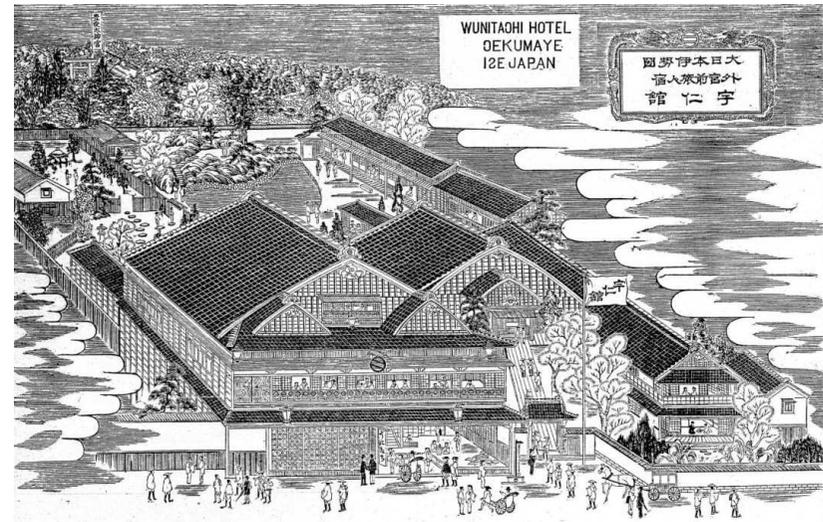
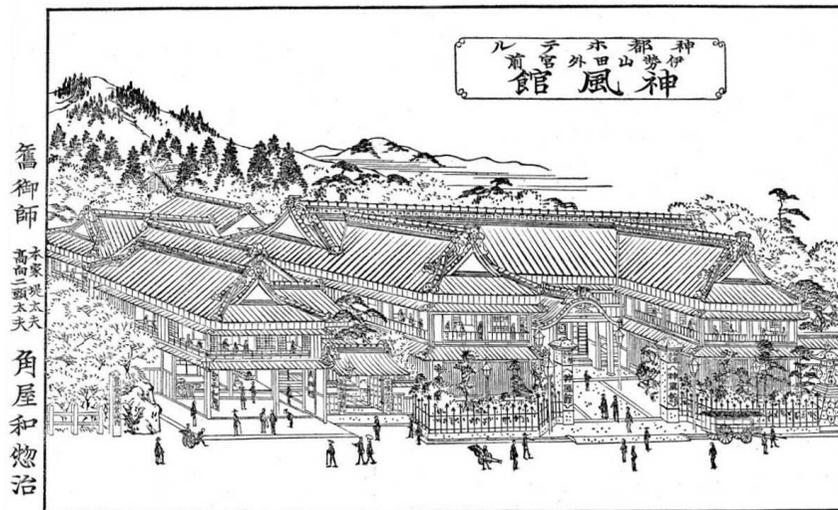


外宮：民家127戸を撤去 苑地と民家の間に幅7間の道路開通 デザイン 造園家 小沢圭次郎  
明治22年遷宮時、勾玉池を造成 北御門前の旅館街の立ち退きと神苑整備が完了するのは明治37年頃  
→ 立ち退き住民の苦勞 → 現在につながる観光価値の向上

# 内宮正殿四重垣、東西の宝殿が正殿の後ろに後退した構造が確立

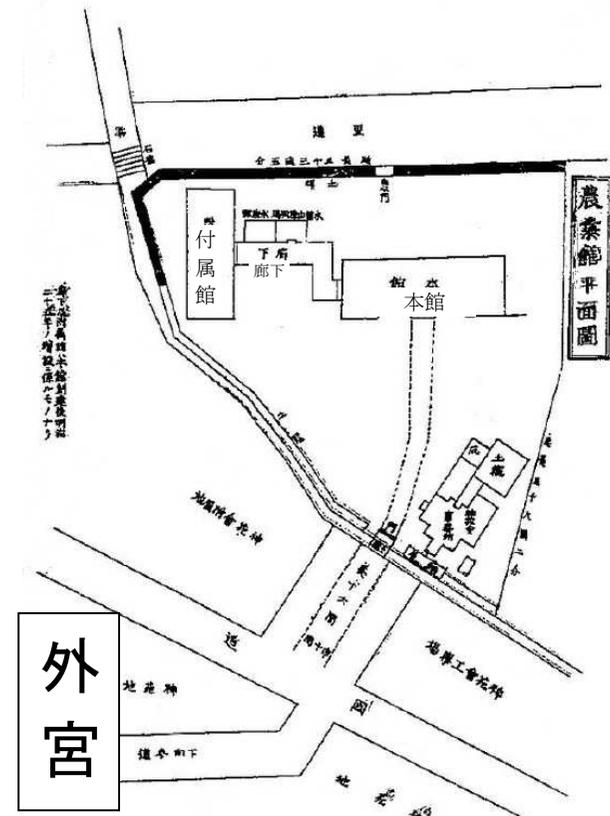


## 外宮北御門前の旅館



# 神苑会の業績(3)明治24年(46歳)「神宮農業館」外宮神苑前建設

日本最古の私立自然科学博物館



床面積:100坪平屋・瓦葺 館内を農作・種樹・漁労・牧畜・養蚕の5部に分け、さらに24類に細分し、各種産物・製品・器具・機械・標本・模型・図書・統計を展覧。  
西隣には津市の公園内にあった三重県物産陳列所を移設し、工業館として増設。工芸品16種1600余点を展覧。

## 明治26年(48歳)「参宮鉄道(株)」設立 (現 JR 東海紀勢本線参宮線)

明治22年 神苑会会頭吉井友実(ともざね伯爵、宮内次官、日本鉄道社長などを歴任)の提唱により北川矩一(初代宇治山田市長)らが発起人となり、

明治26年 **太田小三郎**が、津一小俣間の参宮鉄道(株)設立の仮免許取得

明治30年 津～相可(現在の多気)～宮川間が開業

明治42年 (12年間を要し)宮川～山田(現在の伊勢市)間が開業

明治44年 亀山～山田間を参宮線とする

山田～鳥羽間が国鉄線として開業し全通



吉井友実



北川矩一



明治26年 参宮線終着駅として開業 降者数が松阪駅の約2倍で混雑 明治30年山田駅開業で約10分の1に激減

明治42年頃 山田(現、伊勢市)駅

## 明治27年(49歳)「山田銀行(株)」開業

明治27年開業 頭取:島田長兵衛、取締役:北川矩一、西田七左衛門、野村四郎兵衛、**太田小三郎**

明治29年 鳥羽支店、同30年波切支店を開業、宮後15番地に本店を新築

明治34年 以降、休業

(明治40~1年 取り付けが全国的に、アメリカ恐慌の影響もあり)

明治42年 三重銀行(明治33年開業)と合併 頭取:太田小三郎 (大正7年 四日市銀行へ併合)



山田貯蓄銀行(八日市場)



勢南銀行(八日市場)



不動貯蓄銀行 明42岩淵町→大6豊川町



百五銀行山田支店 明12出張所→大7現在地

## 明治29年(51歳)「宮川電気(株)」創業

明治20年	(1886) 太田小三郎らにより電灯会社設立試案立案
明治28年	(京都市電開業)
明治29年	水力発電による電灯等電力供給、電気鉄道を目的とする宮川電気(株) 創業 社長:平川靖(大阪)、専務:秋田喜助(37)、取締役:太田小三郎(51)、山口善五郎(三十四銀行)、村井恒蔵、監査役:弘世助三郎(第三十四国立銀行 関西鉄道発起人)、泉 清助ら就任
明治30年	岩渕第一発電所(現在の中部電力株伊勢営業所内)ボイラー1台(100馬力)発電機1台(50kw)で電灯事業営業開始 市内に電灯781個を点灯 社長:秋田喜助 就任
明治36年	伊勢電気鉄道(株)と改称 本町(岩渕町)-二見間電気鉄道竣工(全国で7番目) 電車運転用に岩渕第二発電所(錦水橋下流左岸、直流 70kw)を増設 社長:太田小三郎
明治38年	山田駅前(後、伊勢市駅前)～本町間延伸
明治39年	古市口～宇治(後、猿田彦神社前)及び中山・二軒茶屋間開通
明治40年	中山より二軒茶屋まで開通 電灯供給地域を四郷浜郷両村に拡張 社長:太田小三郎、副社長:秋田喜助、常務:村井恒蔵、取締役:村井忠三郎、五富利金吾(町会議員)、監査役:田口程吉(町会議員)、竹内善寿、阿竹嘉六
明治41年	電灯供給地域を二見町に拡張
明治42年	外宮前～古市口間開業 この間を事実上、複線化 電気需要の増大に対応して、第二発電所に電灯用発電機(300kw)が増設
明治44年	電灯供給地域を大湊神社両町に拡張

大正3年市電全線開通、各社と合併を繰り返し三重交通(株)に継承され、昭和36年 1961 廃線  
電力部門も各社と合併を繰り返し、現在の中部電力となる



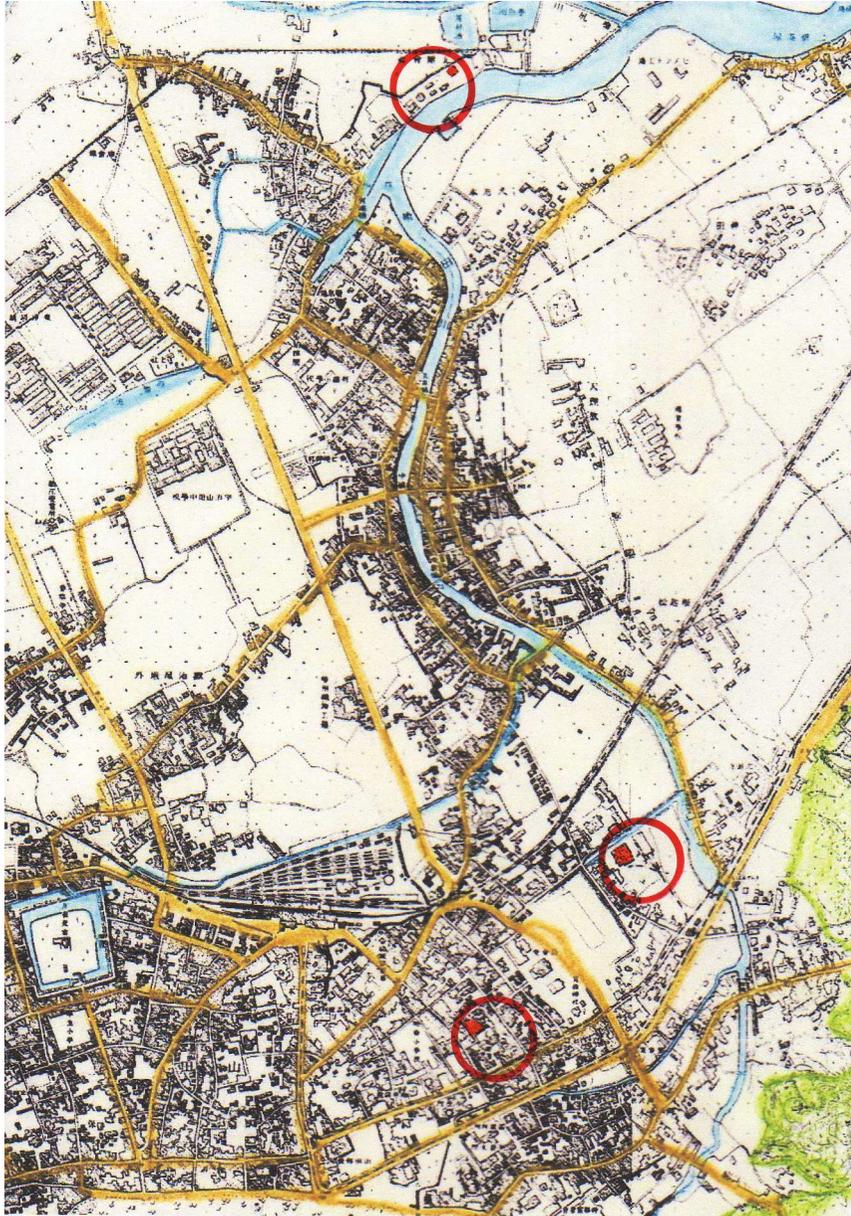
水力発電所建設のための宮川視察？



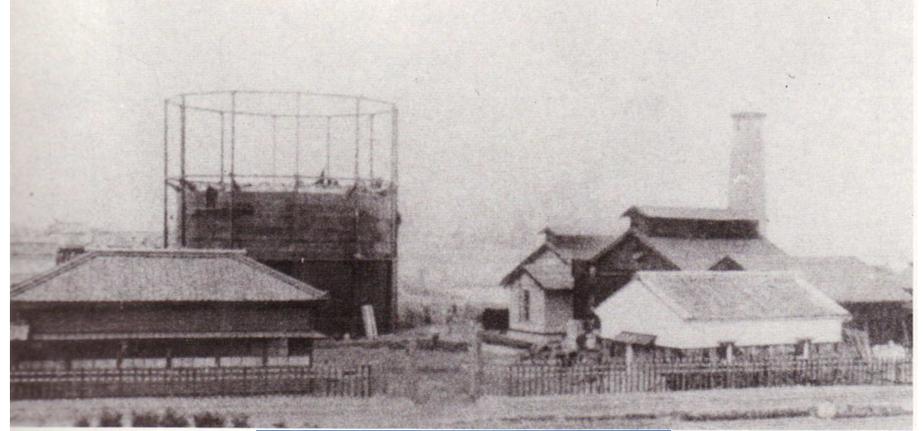
秋田喜助



宮川電気本社(現、中部電力伊勢出張所)内に  
建立された銅像 (金属類回収令で供出)



火力発電所は3つあった

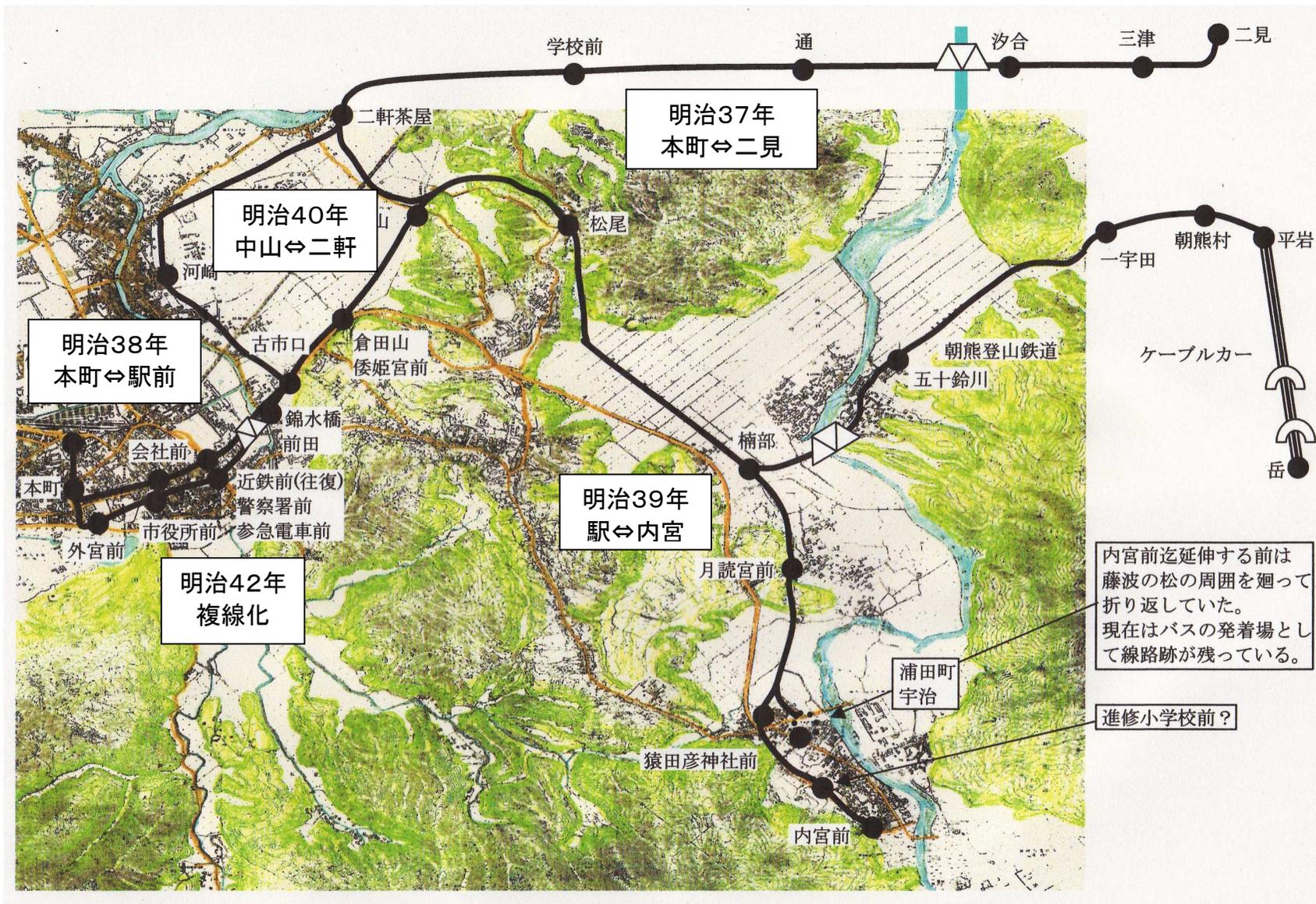


船江の火力発電所 合同瓦斯(株)へも発展



錦水橋のたもとにある火力発電所

# 伊勢電気鉄道路線図と開通年度



内宮前迄延伸する前は藤波の松の周囲を廻って折り返していた。現在はバスの発着場として線路跡が残っている。

進修小学校前?

## 駐車場の風景



油屋旅館支店 山田駅前停留所 宇仁館支店 明38頃



外宮前停留所 明42以降



浦田町停留所 ループ折返し(藤波の松) 明40頃



現在、こんなバスが！

## 電気鉄道の開業順位

順位	開業年月日	開業時会社名	開業時の路線
1	明治28年	京都電気鉄道	(①路面 京都市電) 伏見線 七条停車場 - 下油掛間
2	明治31年	名古屋電気鉄道	(②路面 名古屋市電) 笹島 - 県庁前間
3	明治32年	大師電気鉄道	(軌道) のち京浜電気鉄道、川崎 - 大師間
4	明治33年	小田原電気鉄道	(軌道) 国府津 - 小田原 - 湯本(後、箱根湯本)間
5	明治33年	豊州 <small>ぶしゅう</small> 電気鉄道	(軌道) 大分町(後、堀川) - 別府町(後、別府棧橋)間
6	明治35年	江之島電気鉄道	(軌道) 藤沢 - 片瀬(現・江ノ島)間
7	明治36年	伊勢電気鉄道	(③路面) 本町 - 二見間

鉄道には路面電車と軌道電車(線路専用敷地内を走る)のがある

伊勢のチンチン電車は

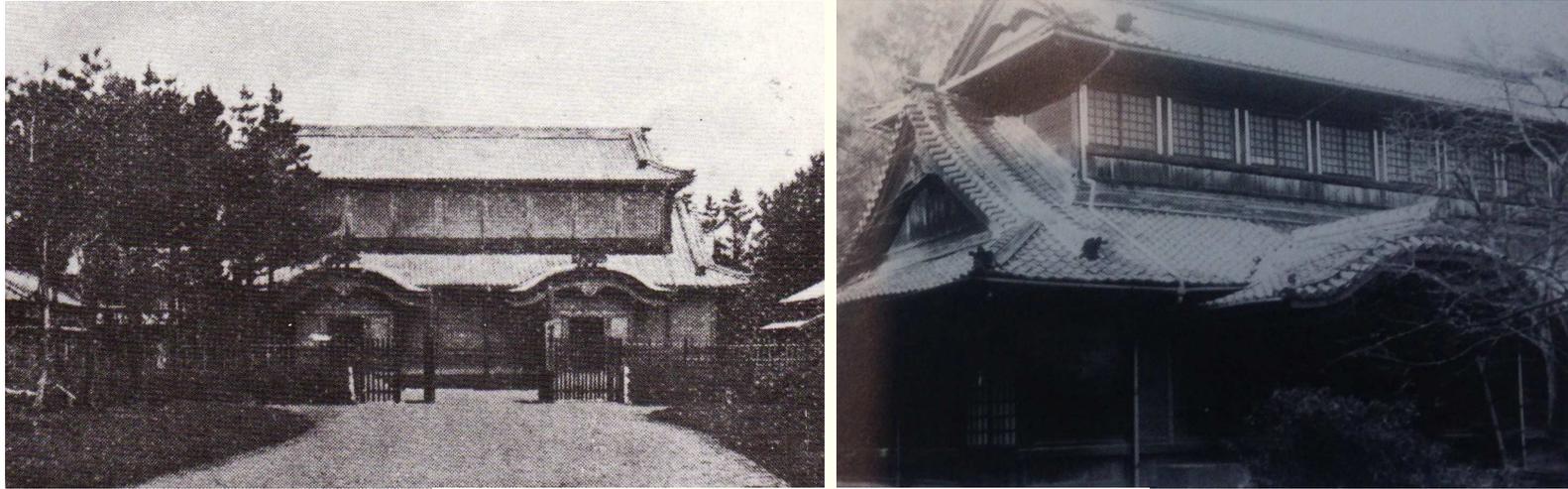
電気鉄道としては「全国7番目」

路面電車としては「全国3番目」

## 神苑会の業績(4)明治36年(58歳)「神宮撤下御物拝観所」建設

---

明治22年の遷宮で撤下された神宝や装束を展示



明治45 撤下物を徴古館に移管し、閉鎖



古市口より神宮撤下御物拝観所までの道路建設が「御幸道路」整備の始まり

## 神苑会の業績(3)明治38年(60歳)「神宮農業館」倉田山新設

---



設計 赤坂離宮(現在の迎賓館)や東京・奈良の国立博物館を手がけた宮廷建築の第一人者、片山東熊

## 明治40年(62歳) 光熙<sup>みつひろ</sup> 太田家の養嗣となる

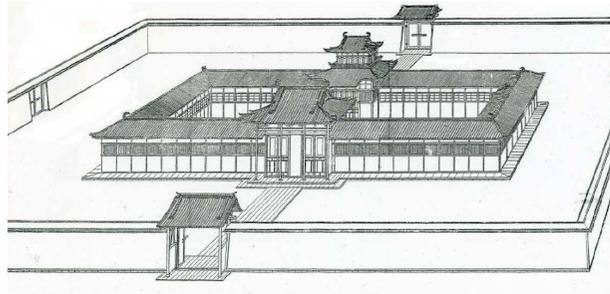
- 明治07年 1874 山口県生れ 小三郎の同胞下関の豪商・勤王志士 白石正一郎の末弟は大庭家養嗣 景明となり尊皇攘夷運動に身を投じたが、「光熙」はその男子
- 明治31年 1898 東京帝大法科卒業後、鉄道省入省
- 明治39年 1906 (32歳)京阪電気鉄道設立時の専務取締役(のち会長)渡辺嘉一(日本土木史の父、参宮鉄道の経営にも参画)が鉄道省の人材斡旋を依頼
- 明治40年 1907 京阪電気鉄道入社 庶務課長として開業に尽力  
同時に奇縁を知って、小三郎と養嗣縁組 小三郎62歳、光熙33歳
- 明治43年 1910 京阪電気鉄道取締役就任
- 明治44年 1911 京阪電気鉄道常務取締役
- 大正05年 1916 (小三郎逝去)
- 大正07年 1918 伊勢電気鉄道社長就任
- 大正08年 1919 京阪電気鉄道が設立に参加した大同電力(初代社長福澤桃介)常務取締役就任
- 大正13年 1924 三重合同電気(1930年合同電気に改称)社長就任
- 大正14年 1925 京阪電気鉄道社長就任
- 昭和03年 1928 ~1931 大同電力代表取締役副社長に昇格 のち~1939 取締役
- 昭和11年 1936 京阪電気鉄道会長就任
- 昭和12年 1937 ~1939 合同電気が東邦電力に合併、東邦電力副社長就任
- 昭和14年 1939 京阪電気鉄道相談役 食道癌のため死去 享年65歳



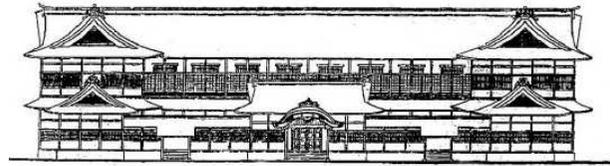
太田光熙

## 神苑会の業績(5)明治42年(64歳)「神宮徴古館」竣工

日本初の私立歴史博物館 設計:片山東熊 前庭設計:宮内省内苑局 市川之雄 明治44年神宮に奉納  
昭和20年大部分を焼失 昭和28年第59回神宮式年遷宮を記念して外壁をそのままに、二階建に改装復旧



計画当初案1



計画当初案2



圖ノ館日賓浦見二属所會苑神 ●  
賓日館に仮徴古館 明治27年



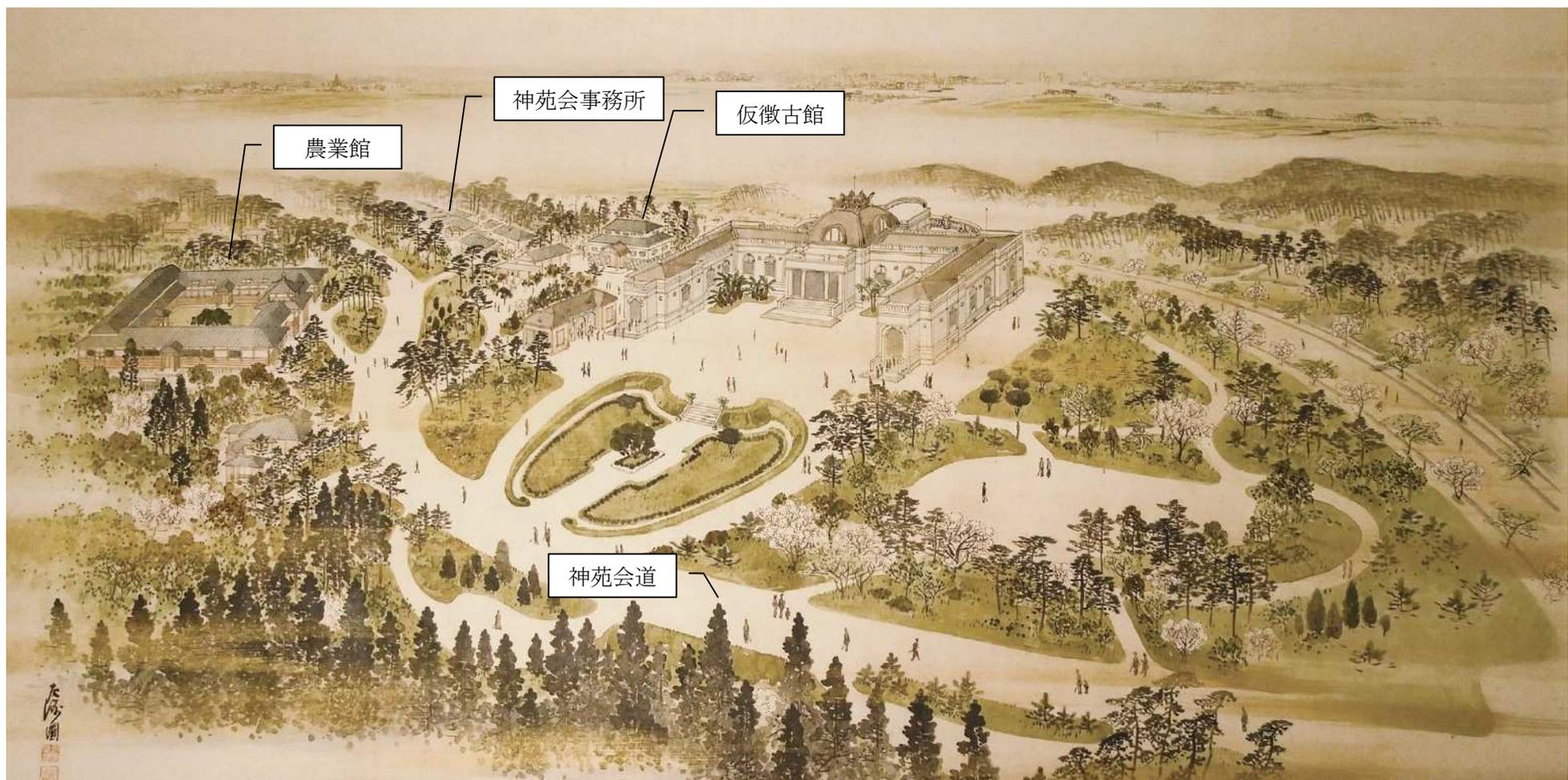
仮徴古館 明治38年倉田山に建設



明治42年竣工



現在

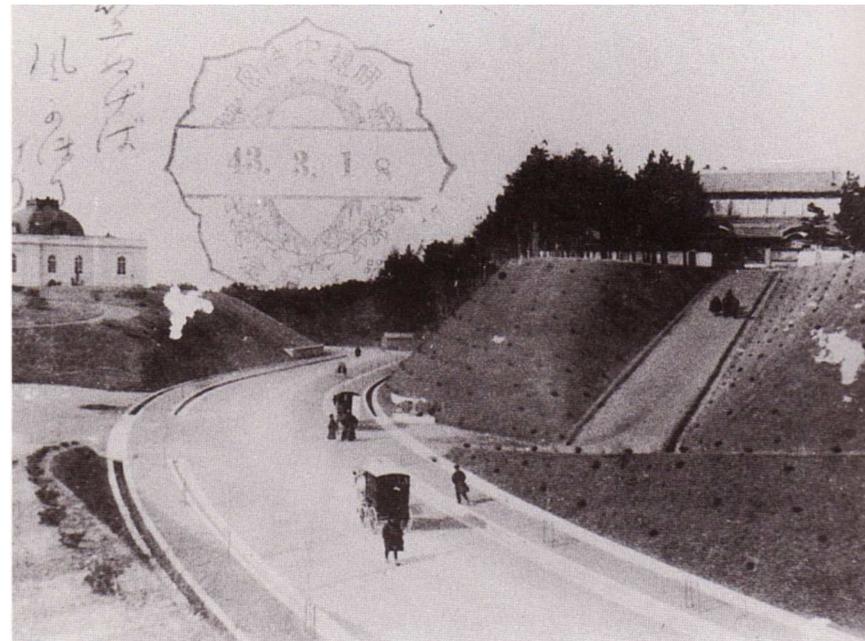


徴古館鳥瞰図 中村左洲 作

計画案では、動物園、植物園、水族館、競馬場もあったが・・・

## 神苑会の業績(6)明治43年(65歳)「御幸道路」竣工 40年着工

明治36年 岩淵(古市口)～久世戸(倉田山 神宮撤下御物拝観所)間の道路敷設と錦水橋建設  
内宮へ延伸して完成 行幸の便を考え新設されたため「御幸道路」または「御成道」と言われている  
歩道の千本の桜・楓の植栽は御木本幸吉の寄付であったという 昭和9年舗装



結果として、参拝経路から古市遊郭(備前屋も含む)は外れてしまった→古市の衰退に拍車！

明治18年 日本橋から国道2号を重複経由して四日市追分-内宮間の道路を『国道9号』に指定(大正8年廃止)  
大正09年 東京～内宮間の道路を『国道1号線』として明記 (昭和27年廃止)

## 神苑会の業績(7)明治44年(66歳)「豊宮崎文庫」献納

慶安元年 1648 外宮権禰宜・出口延佳のぶよしの提唱により神宮養成学校兼図書館として創設  
明治元年 1868 廃止され宮崎学校が開設 同11年火災により講堂焼失 厄災を免れた2万余冊の書籍類を  
西田貞助(旅館 宇仁館館主)から買収 神宮へ献納 現在は神宮文庫に所蔵



# 明治44年(66歳)「神苑会」解散

総裁: 明治22年 有栖川宮熾仁たるひと親王→明治28年 有栖川宮威仁たけひと親王

会頭: 吉井友美(宮内次官 日本鉄道社長)→明治24年 花房義質よしもと、副会頭: 渡辺洪基ひろもと→花房義質

会頭	従二位	勲一等子爵	花房義質 外交官日赤社長
副会頭	正三位	勲一等男爵	周布 <small>すふ</small> 公平 貴族院議員
理事	従三位	勲二等	小松原英太郎 大臣 拓大学長
	従三位	勲一等	田中芳男 博物学者 男爵
	従四位	勲五等	桑原芳樹 熱田神宮宮司
専務理事	従六位	勲六等	満岡勇之助 神苑会の名付け親
理事			太田小三郎
評議員	正二位	勲一等伯爵	土方久元 政治家 宮内大臣
	正四位	勲三等伯爵	有田義資 <small>よしすけ</small> 三重県知事
	正四位	勲三等	斯波淳太郎
	従四位	勲三等	水野錬太郎 大臣
	従二位	勲六等子爵	三室戸和光 <small>まさみつ</small> 公家
	従三位	勲三等	山崎直胤 <small>なおたね</small> 三重県知事
	正六位	勲五等	安江 孝
	従五位	勲六等	木野戸勝隆 神宮宮司 皇學館館長
監事	従四位	勲三等	馬場三郎 実業家 貴族院議員
	従三位	勲二等男爵	渋沢栄一 実業家
		勲三等	大谷嘉兵衛 実業家 貴族院議員





有栖川宮熾仁親王



有栖川宮威仁親王



吉井友美 伯爵



花房義質 子爵



周布公平 男爵



小松原英太郎



田中芳男 のち男爵



土方久元 伯爵



有田義資 伯爵



水野錬太郎



三室戸和光 子爵



山崎直胤



渋沢栄一 男爵

# 土方泰山久元 伯爵 (土佐)

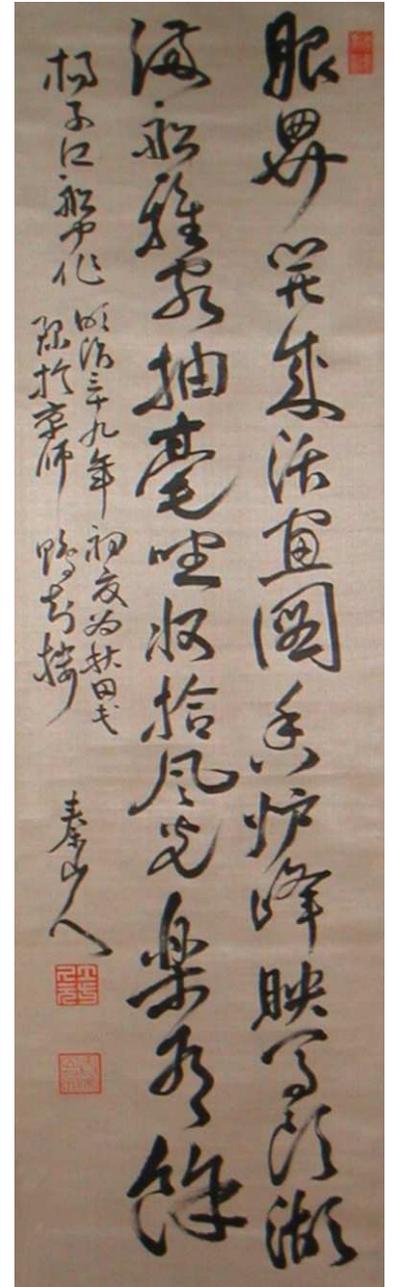
1833 天保4~1918 大正7 享年86歳

幕末・明治の志士。神苑会評議員。政治家。土佐勤皇党に参加し、藩命に因って上洛し、三條実美の信を得て学習院御用掛となり「七卿落ち」に随行し、中岡慎太郎と共に薩長同盟に尽力し、維新後は明治天皇に信任されて宮内大臣・宮中顧問官・枢密顧問官などを歴任した伯爵で、のち明治政府に出仕し、のち元老院議員・宮中顧問官・枢密顧問官・農商務大臣等を歴任した。

大正初期には「生きたる勤皇討幕史」として有名で、幕末の様子を描いた『回転実記』を著している。かの『銭形平次』の作者野村胡堂も報知新聞記者としてインタビューし、その修羅場を潜った迫力に肝を冷やしたことを記している。彼は、大正から昭和にかけて、築地小劇場を拠点に新劇運動を興した演出家。

眼界開成活畫図香炉峰映馬頭湖  
滿船雅客抽毫坐收拾風光樂有餘  
楊子江船中作 明治三十九年 初夏為秋田氏  
錄於京師 鴨知樓 秦山人

萬福来 大正六年秋 為石野氏 清囑 八十五叟 正二位久元



# 太田小三郎を支えたもの

---

伊勢の人じゃなかった

太田小三郎の実直な人柄(潔い<sup>いさぎよ</sup>い神苑会の解散、無冠)と高い庶務処理能力

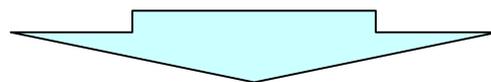
のち、明治政府の重鎮となる「尊王派」などとの繋がり

王政復古への急速な転換を図りたい政府の思惑＝天皇の神格化  
→国家神道＝日本の総氏神：伊勢神宮(明治天皇の伊勢神宮参拝 4回)

伊勢神宮の権威は高まったけれど、明治4年御師制度廃止により  
参拝客が激減 伊勢が変革を求めている

経済機構の変革 株式会社制度による出資・・・国立第一銀行が初

交通網(鉄道)の変革・・・



神苑会の活動・参宮鉄道・宮川電気・山田銀行など・・・「神都伊勢」を創出

(太田小三郎が求めている伊勢の変革は、現在、出来ているのでしょうか?)

IT・物流・クラウドファンディング・循環型社会・・・新産業力の創出、女性・インバウンド・・・新観光力の創出

# 太田小三郎 大正5年1916没 71歳

伊勢電気鉄道(株)社長として天寿を全うした



太田小三郎君紀功碑(昭和9年建立 倉田山)



そばに、大岩芳逸翁碑(大正9年建立)



久世戸墓地 妻くに 小三郎 光熙  
大正初期に備前屋は売却

# 完

## 謝 辞

伊勢郷土史研究家 山田修司氏（ブログ「いにしへの伊勢」）

郷土史研究家 飯田良樹氏

伊勢志摩さいこう会 飯田ヨシ子氏

には資料の提供、ならびに、ご指導をいただきました

## 参考文献

「神苑会と宇治山田 -近代的聖地の形成をめぐって-」 ジョン・グリーン

伊勢神宮の近現代史「神都物語」 ジョン・グリーン、神都計画とその背景 阿形次基

伊勢度会人物誌、神都名家集、宇治山田市史、最新 伊勢市史、

幕末秘史 英彦山殉難録、勢伊志紀顔見評判記：諸名士大一座 Wikipedia コトバンク

昭和61年 ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和 伊勢 二見 小俣 (株)国書刊行会

平成4年 図説 伊勢・志摩歴史<下巻> (株)郷土出版社

平成2年 目で見る 伊勢・志摩の100年 (株)郷土出版社 ほか